

ニュース さよなら原発 第79号 2019. 8. 11 発行



さよなら原発ひたちなか市実行委員会

連絡先：ひたちなか市馬渡 2824-63 佐藤 英一 TEL:029-273-4775

ホームページ： <http://sayonaragennpatu.wixsite.com/mysite>

東電「コスト安が東海第二支援の条件」と表明

ーコスト削減で安全軽視のおそれもー

東電は、東海第二原発再稼働後の発電コストが安くなければ資金支援しないこともあると表明しました（7/16 記者会見）。

東海第二は6市村長の事前了解が得られる状況にないところに、①再稼働のための工事費が新たに3,000億円超かかり、②工事が何年にも及び実際に稼働できる期間が短いため、発電コストは当会の試算では14.6円/kw・hになります（実績の単価+《追加工事費÷総売電量》）。

稼働期間が短期化すれば、一層高くなります。他の発電より高コストなのは明らかです。（右表）

コスト削減に向け、品質を度外視した安ものプラント材採用、施設・部材の更新先送り、手抜き検査など重大事故につながる誘惑が絶えず付きまといまふ。みなさんの協力で、東海第二原発の再稼働を断念させましょう。

発電法	単 価
火力	9.9 円
水力	7.3 円
事業用太陽光	8.5 円
風力	太陽光に続く
東海第二	14.6 円以上

（東海第二は当会試算。火力、水力は実績の平均《大島堅一立命館教授調べ》）。太陽光、風力は資源エネ庁の見通し）

古い「東海第二原発」は、廃炉が一番！
◇原発でできた放射能は、消滅する技術がなく、何万年も脅威です。
子どもたちに、安全な未来を
◇原発廃炉へ、廃炉技術を磨くことこそ重要です。

東海第二再稼働反対の陳情 9月のひたちなか市議会が、採決の最後の機会

東海第二原発再稼働反対の陳情は、昨年6月の市議会総務生活委員会（市議8人）から審査継続中で、来る9月議会が採決の最後の機会となります（採決なければ議員任期満了により審議未了・廃案です）。

県内（44市町村）では既に29市町村が反対を決議し、5市町村が趣旨採択*しています。

残っているのは東海第二周辺と遠方の市町村です。「東海第二周辺は原発事故で最も被害を受けるのに」「避難では受入れ

る市町村に負担をかける立場なのになぜ反対しないの？」といぶかしく見られています。

* 陳情の趣旨に賛成の採択にとどまり、国や県等へ提出する決議はない。

次の市議会総務生活委員会の 予定は9月11日(水)です。

議会が必ず採択するように要請をつづけましょう。

ひたちなか市での

東海第二原発への

声 声

皆さんの **声・つばき**
お寄せ下さい。
TEL/FAX: 029-273-4775

市内 男性 70歳代

男性：いやー久しぶり。暑い中ご苦労様です。なんだね・・・避難なんて言うけど、突然避難したって生活が成立つわけねーんだからね・・・事故前から避難先を決めてそこでの生活が成立つ様にしとかなくっちゃならねえ・・・再稼働に賛成する人はこの二重生活が出来てるってことかね？

会員：しかも、万々が一の事故でも被害甚大で250km より先に避難地を見つけないと安全・安心できない。8年前の経験です。

田彦 女性（大谷市長の父親の教え子）

女性：同級生一同で大谷市長誕生を応援したのよ。新市長に期待してるわ。

会員：フレッシュですね。市民にまっすぐ向き合い東海第二原発に反対を貫いて欲しいです。

女性：同感よ。同級生は皆、東海第二に大反対なの。先日も大谷市長に「市長になったからには本気になって、東海第二を無くさないでダメだよ」とみんなで言ったのよ。

会員：それは心強いお話です。

小泉純一郎元総理 日立講演会

日時：9月15日(日) 開場 12時 開会 13時
場所：日立市民会館大ホール
(日立駅から平和通りを国道6号方向へ徒歩15分)
チケット：500円

ひたちなか市文化会館（☎029-275-1122）など



東海第二を動かすなんて
とんでもない
原発なくすのに 保守も革新も、
与党も野党も、関係ない

☆ 募金と配り手のお願い ☆

ニュースは毎月1万5千枚、市民の募金で作られ、市民の手で配られ、評判を呼んでいます。

- 1 皆さまの募金を
お願いします。
- 2 各戸への配布に
ご協力ください。

詳しくは、会員または連絡先へ
お願いします。

放射線測定ボランティア・正治さんが、測ってみると？

2019 8/6(火) ひたちなか市新光町「大沼十字路口」（電気のYAMADA前）の街路ケヤキの脇（歩道側）高さ1mで測定。高さ50cmでは0.68 μ Sv/h。汚染程度はひたちなか市神敷台のケヤキ並木と似ている。北東側の「YAMADA」の敷地は2011年3月の東電福島第一原発事故時は広い空き地であった。

- 1) 単位は μ Sv/h（マイクロシーベルト毎時）。
*「2011年の原発事故」前は0.05～0.02 μ Sv/h。
- 2) 測定器はHORIZA PA1000 Radi；測定者は正治。



セシウムからの放射線は測定を開始した2012年4月から3年後に約半分に減りました。今後は減り方がゆるやかになるので半減するのに約30年かかると推定されます。樹木の根元に濃縮されがちなので要注意です。